



秋厚労ニュース

NO1919号

2019年9月11日

秋田県厚生連労働組合

秋田市山王5-4-2

TEL 018(864)3341

FAX 018(864)3349

医療守る事は地域守る事

第67回全厚労定期大会

9月6日（金）～7日（日）、愛知県の「ウイングあいち」で第67回全厚労定期大会が開催され、秋厚労8人を含む167人が参加しました。



茨城 厚生連の方針受けて大学が医師を引上げ

今回の大会で特に印象的だったのは、茨城県厚生連労働組合（茨厚労）の特別報告です。

今年2月、茨城新聞が「なめがた地域医療センターの大幅規模縮小」を報道。発端は、県厚生連の「2019年度以降徐々になめがたの体制を縮小」「入院受入れは土浦協同病院へ」との方針でした。方

なめがた 地元の強い要望で建てた病院

茨厚労は、チラシで地域に事情を知らせ、近隣5市への議会陳情や商店・スーパー前宣伝を実施。反対署名は3ヶ月で1万2千筆集まりました。

針を受け、大学は「4月からの医師撤退」を判断しました。

なめがたの院長・事務長も直前まで知らず、職員説明会で涙ながらに「4月から4病棟を1病棟へ、夜間救急・手術の受入れ中止、一部職員は転勤」について話したそうです。

た。住民からは「この病院に来ると安心しホッとする」など、5百通ものメッセージが届きました。

元々、なめがた地域医療センターは、2000年、医療過疎の地域に、地元の強い要望で開設。住民が1人3万円ずつ出し合って建てました。

団体交渉を重ねる中で、経営者の主張は「病棟を1年後になくす」から「49床残す」へ変化。「外来は維

経営者の都合で無くしてはいけない

報告した吉井さんは、「赤字だから仕方ないので、という意見もあったが、厚生連は公的病院。経営者の都合で無くなって良

第36回

全厚労医療研究集会

地域を守り、未来へつなげる働き方を探そう

2019年

11月15日（金）～17日（日）

茨城県 潮来ホテル

講演 「経営者は地域医療を守るために何をすべきか」

明治大学大学院教授 山口不二夫先生

分科会

- ①医療労働者と地域とのかかわり
- ②働きがいを見出すための私たちの「休み方改革」
- ③病院を地域に開く
- ④厚生連の病院の果たすべき役割

持、昼の救急は受入れ」が決まり、ついに理事長から「病院として存続する」との発言を引き出しました。

転勤する職員についても「本人希望を最優先、転勤後の意向調査」などを約束させ、希望者の面談に茨厚労役員が立ち会えるようにするなど、丁寧に対応。今後

湖東と重なる流れ

病院の縮小や統廃合は、他人事ではありません。「厚生連の方針を受け、医師が撤退する」流れは、湖東病院廃止報道の時と重なります。湖東病院も、その後、住民と秋厚労の運動を受けて新築しました。

人口の少ない地方の病院で、赤字が出るのはある意味当然。自分たちが暮らす地域を守るためにも、住民とつながる大切さを感じた大会でした。